

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
71	川崎市立 宮崎 小学校	西田 裕子

学校教育目標	今年度の重点目標
自主的な子ども 思いやりのある子ども 健康な子ども	重点目標スローガン(合言葉)「自分 友だち 宮崎 大好き たからもの」をもとに「支え合う学校」、「学び続ける学校」「地域とともに歩む学校」を3つの柱として教育活動を進め、学校教育目標の実現と一人一人が持続可能な社会の担い手となり、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる子どもの育成を目指す。2年目となる再生整備工事、また創立150周年を迎え、保護者や地域の方々と連携し、重点目標スローガンを合言葉に子供たちの自主性を大切にしながら継続して取り組んでいく。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学び続ける学校 児童一人一人が主役の学校づくり	○委員会活動や代表委員会を中心とした、宮っ子朝会や150周年企画など、児童主体の企画の推進	・150周年式典に向けて、委員会をはじめ、児童主体の活動ができていた。子どもからのアイデアを取り入れることで、活動の広がりが見られた。積極的に宮っ子朝会や校内放送などで活動を知らせることができた。	・150周年記念式典に向けたクラスや学年ごと、学校全体の取り組みを通して、学校に対する思いを深め、大切にしようとする気持ちが育てられた。周年事業として作成した「記念歌」にも載せた思いをつなげていく。
2 学び続ける学校 一人一人が学ぶ楽しさを実感し、主体的に取り組む授業の実現	○「楽しいまなびや」という研究テーマのもと子ども自身が「学ぶことがたのしい」「学んでよかった」と感じられるように日々の改善に取り組んでいく。 ○研究授業をはじめ、日々の授業を見合うことを通して、子ども一人一人の「わかった」「できた」「たのしい」が生まれるよう、授業力向上に努める。	・アンケートから、子供たちの多くが「わかった」「たのしかった」「学んでよかった」と肯定的な意見が見られる。日々の研究をはじめとした取り組みが成果として見えてきている。 ・校内研究授業を核に、常時研究を進めてきた。授業研究会での成果と課題を、学年内で話し合いながら、日々の授業改善に生かしてきた。	・子供たちの中では、「わかった」「たのしい」という肯定的な思いを、保護者が実感するまで、伝わり切れていない面が見られるので、子供の学習の様子や思いを発信するため授業参観やホームページなどの工夫をしていく。 ・教職員の研修の機会を増やし、必要とされる研修内容を精査し、授業改善に努めていく。
3 学び続ける学校 GIGAスクール構想ステップ3への取組の推進	○GIGA構想ステップ3に移行することを踏まえ、研修などを計画・実践していく。	・今年度、各教科内で有効にパソコンを活用する場面を増やすことができた。子供たちが進んで学習に活用する姿が見られるようになってきた。	・各教科内でパソコンを活用できた場面やな用を記録し、次年度に引き継いでいく。
4 支え合う学校 他者理解を深め、多様性を受け入れる児童の心の育成	○自分も友達も大切にするという意識を道徳やかわさき共生＊共育プログラムをはじめ、すべての教育活動において行い、人権意識を高める。	・「自分 友達 みやざき 大好き たからもの」を児童も職員も意識した学級経営を行うことができた。アンケート結果も保護者児童ともに高くなっている。共生＊共育プログラムの目的や内容を知らない保護者もいると思われるので、積極的に発信していく。	・来年度も計画的に共生＊共育プログラムを実践していく。人権週間に合わせて取り組むことにもなるので、学年の年間計画に取り入れていく。
5 支え合う学校 一人一人が安心して過ごせる教室環境づくり	○一次支援の充実を図り、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた児童が安心してできる環境づくりに努める。	・児童、保護者とも学校で安心して過ごしているというアンケート結果があり、取り組みの成果が表れている。すべての児童にとって学びやすい環境づくり、わかりやすい授業づくり、安心してできる雰囲気づくりに努めることができた。	・引き続き一次支援の充実を図り、学級の中で児童が安心して過ごし、学習できるよう努める。そのために、基礎的な教室環境の整備、ユニバーサルデザインの視点の取り入れた環境・授業づくり、合理的配慮をさらに推進していく。
6 支え合う学校 学校・家庭・地域が丸となった児童の見守り、支援	○登下校時の安全確保の呼びかけ、黄色い帽子の着用 ○学校内外の危険箇所の情報共有 ○行事などの際のPTAやおやじの会による下校など安全見守り	・下校指導、黄色い帽子の着用の声かけなどを通して、全職員で意識を高めることができた。 ・アンケート結果から、多くの児童が安心、安全に過ごしている。PTAや地域の見守り体制が生きていることがわかる。 ・児童に向けて朝会や学級での話をしたり、保護者にも学校だよりなどで安全な登下校について協力を促したりと、意識付けすることができた。	・下校指導の時期や方法を検討し、より一層安全やマナーを守った登下校ができることを目指していく。 ・今後もPTAや地域とも連携しながら、児童の安全を見守っていく。 ・学級指導や避難訓練をすることで、より一層防災に対する意識を高めていく。
7 地域とともに歩む学校 児童が安心して過ごせる学校、地域	○支援教育コーディネーターを中心に、児童・保護者が相談しやすい環境づくりに努める	・学校生活アンケート(いじめ防止アンケート)は、年2回実施することができ、一人一人の丁寧な聞き取りも行うことができ、児童のみ取りに生かすことができた。 ・学校巡回カウンセラーと支援教育コーディネーターの違いや相談内容について保護者への周知が必要だと考えられる。	・保護者にホームページやお便り、学校巡回カウンセラーと支援教育コーディネーターへの相談体制を発信、周知していく。 ・長期休業明けをはじめ、気持ちが不安定になる時期に朝会などを使って、相談方法を呼びかけていく。
8 地域とともに歩む学校 地域材を生かした学習活動の展開と、地域への愛着心の育成	○学校教育推進会議での児童会活動報告・意見交流 ○児童会による150周年記念式典の企画・運営 ○町のよさに気付ける地域との交流(市制100周年に向けて)	・式典に向けての取り組みを写真などを用いて地域の方に発信できた。 ・150周年記念事業に取り組む中で、地域の方と交流を図ることで、地域の方の学校に対する思いを知ることができた。	・地域と関わりをもつことで、地域の方々の強い思いを知ることができた。今年度の150周年記念事業の活動を継続しながら、その経験を振り返り、再度見直していくことで、市制100周年の取組に生かしていく。
9 地域とともに歩む学校 児童が安心して安全に過ごせる学校、地域	○学校ホームページの更新をし、学校の情報発信の強化、及び地域に開かれた学校づくりに貢献する。	・学校ホームページやミマモルメを活用し、保護者への迅速な連絡、情報発信ができた。 ・なかなか学校ホームページの更新を進めていくことができず、保護者や地域への発信が足りなかった。	・学校だよりをはじめ、来年度からは、学年だよりや児童の様子をホームページに掲載することで、学校での取り組みや様子をわかりやすく知らせることができるようにする。また、ペーパーレス化をより推進していく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
今年度は、創立150周年事業として運動会や式典などがあり、それぞれの行事に対して取り組み姿勢や子供たちの地域への愛着心の高まりなどが感じられ、心温まる時間を過ごすことができた。宮崎小の子供たちは、自己肯定感の高さが強みである。ほめることが大事で、それが自己肯定感を高めていくことにもつながっていく。ほめることは認めること、それが自己肯定感を高めていくことにつながる。家庭、地域ともに愛情をもって接していくことが大切と感じている。多くの子どもが、「住んでいる街が好き」と答えており、地域代表者としてこれからは安心・安全なまちづくりを徹底していくことを再認識した。	創立150周年記念事業の取組を中心として学校運営を行ってきた。「自分 友だち 宮崎 大好き たからもの」を合言葉として随時投げかけてきたことが浸透し、児童は自分たちの学校、地域に対する魅力を再発見し、愛着心を高めることができた。コロナ禍で不足していた他者との関わりや自分の思いを発信する経験を積み、児童の自己肯定感や自尊感情を高めることができた。分かる授業の実践、個に応じた指導・支援体制の充実を図り、一人一人が安心して過ごせる学校づくりを行うことができた。保護者・地域との連携を深めることで、地域と共に歩む学校という意識を高めることができた。次年度以降は様々な形で学校の取組を発信できるように努め、保護者・地域の方々に学校の取組について、より理解と協力を得られるようにしていきたい。